

“Smoke〜” -Work Note 8 170208

風景 A の各要素への覚書

※これまで「個人」と呼んできたものを「私」と呼ぶ

Memo for each elements of Landscape A

we will call “individual” “T” from now on.

1. 煙としての声

Voice as Smoke

1) 5つの音程レヴェル

5 Key levels

2) 個人モチーフの声

Voice of personal motif.

3) 声の位置

Position of the voice

a. 「煙」として

As Smoke

b. 「誰か」として——具体的な体

As Someone ——Concrete body

c. 「私」として——等身大の体

As “T”——life size body

4) 無機的な声

Inorganic Voice

5) 生きた声

Voice of life

6) ゆらめきの感覚

Sense of Shaking

2. 煙としての「抽象的動き」

“Abstract Movement” (A-M) as Smoke

1) 「煙」の動き

a. 下から上へ

Towards upper place from lower place

b. 濃いところから薄いところへ

From the condensed place to the thin place

～生まれて、広がり、消える

～born, spread out, and disappear

c. 意図がない

No intension

2) 受動的な動き

Passive movement

3) 基本は快活な動き

Lively movement basically

4) イメージや意思、問いの提示

To show Image, will, and questions.

～煙のパーソナル・モチーフ

～Personal Motif of Smoke

5) 煙のもとを示す、あるいは移動

To show source of Smoke, or spreading

3. 「言葉」

- | | |
|---------------------|---|
| 1) 誰が言葉をはなしているか？ | Who is speaking words ? |
| a. 「煙」として | As Smoke |
| b. 「誰か」として——具体的な体 | As Someone ——Concrete body |
| c. 「私」として——等身大の体 | As “I”——life size body |
| 2) どこに向かって言葉を発しているか | Where do you utter words towards ? |
| a. 観客に向かって | Towards audience |
| b. 時分に向かって、つぶやきのように | Towards myself, like muttering |
| c. どこかにむかって | Towards somewhere. |
| 3) それぞれの体と声 | Each body and voice |
| 4) 長く言う言葉—風景（時間）を創る | Long--Speaking—To make landscape (time) |
| 5) 短く言う言葉 | Short--Speaking. |
| —断片的イメージのフラッシュバック | —Flash back of fragmental image. |

この場合、少しテキストの言葉の語順を変える必要がある。例えば、以下参考までに。

In this case, you need to edit Text a little bit not to speak words but to throw out words

The following is one of examples of editing text.

The text is written like describing a scene or mindscape. The edited version is arranged with impressive words, and sometimes, repeated. It will become like cry of mind.

「煙のなかで爆音と銃声が響いています
日々の暮らしは修羅と消え
倒れたあなたの頭蓋から
花が咲くように血が流れます
廃墟の街に咲いた紅い花
あなたはうつろな目をひらいたまま
うつろう空を眺めています」

ニガヨモギの星が落ちれば
水はみんな苦くなる
黙示録のニガヨモギはウクライナ語で
チェルノブイリ
そしたら緑色のアプサンを飲もう
そいつはニガヨモギの酒だから
ブルーなモンクでも聴きながら
おれはゆっくりタバコが吸いたい
そいつがおいらの**狼煙**（のろし）なのさ

響く、爆音、銃声、（叫び、騒音、サイレン、・・・）
修羅と消える日々、暮らし
倒れた頭蓋、いくつもの頭蓋、あなたの、わたしの頭蓋
血が流れる 紅い花が咲く
廃墟一面、紅い花が咲く
開かれたままのうつろな目、
うつろう空がいつまでも続く、

ニガヨモギの星が落ちる
苦い水
黙示録のニガヨモギ ウクライナ語で
チェルノブイリ
緑色のアプサンが飲みたい
ニガヨモギの酒
ブルーモンクが聞こえる
タバコが吸いたい タバコを吸っている
狼煙だ 狼煙 狼煙 狼煙 狼煙

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 6) 自分のモチーフの言葉 | Words of Personal motif |
|---------------|-------------------------|

コーヒーブレイク！

今、今回の作品をどのように舞台にしていくかを僕は沢山書いているわけですが、それは通常のように、台本をもって、セリフを理解し覚えて、共演者と演出のもとでシーンづくりをする、というのと違うからですが、そのため、みなさんはリハーサルでは新たなこの作法・方法で動くことに心と身体が忙しいことと思います・・・

とはいえ、そもそも、この新たな作法・方法で何をしようとしているのか？ まずはそれを十分思い描き理解すること、それがなによりも必要です。

この話を皆でしようとするれば多分、何時間何日あっても足りないでしょう。

で、ここで僕なりに簡単に、もう一度、話しておきます。

今回、何をしようとしているのか？ 答えは「煙」について思い描くこと。それにつきます。

出発点は、「出来事」のあとの煙。つまり、瓦礫の中でくすぶる「煙」それを想像すること。

そこはどこか？ 日本で記憶に新しいものと言えば、まだ東北、熊本とあるが、世界中、今現在どこにでも「煙」は立ち上っている。その瓦礫でどんな人があらわれ、何をし、佇み、何を思うのか？ その人の外面や内面はどんなか、うずくまったり、探したり、ゆらゆらしたり、そこで何かを思い出したり、悲しんだり、憤ったり、あるいは記憶の人物と遊んだり・・・

その一つ一つを丹念に具体的に思い描くこと。

また、その煙と場と人の風景を、どのような気持ちで眺めるのか？ その現場を記録し報道しようとするジャーナリストたちは、どんな緊張感で、何を思い、何を伝えようとするのか・・・

そして「煙」は、化学工場の煙、原発の「煙」から、居酒屋の「煙」にもひろがる・・・

「煙」めぐるさまざまな風景、登場人物、思い、そして告発すべきこと・・・

その一つ一つの事柄を丹念に具体的に思い描くこと。

そしてその「煙」の前後、周囲で、どんな生活が奪われ、またどんな希望が持たれるのか？

「煙」をめぐる想像はつきない、そのつきない想像と議論を時間のある限り、ああだ、こうだ、そうじゃないと、身体や声、そして言葉つかいながら、想像し尽くしていく、そのための方法が、今の作業になるわけで、その方法を見せることは目的ではなく、まずはその尽きない想像の一つ一つを心と身体に抱え込むこと、その準備が一番大切なのであり貴重なのであり、また時間がかかることだ。それがおそろかになると舞台は一夜漬けで浅くなるだろう。なによりも尽きない想像をめぐらすこと、それを表すための手立てはリハーサルさえしていれば自然と身についてくる、下手でもいい、個々のイメージとその誰かの思いをしっかり受け止め強く持って頂きたい。

ぼくはよく海や雲の例をだす。それらを見ていて、飽きない、いつも動いているからだ。

それ自身は動かずとも、それを動かしているエネルギー（生）を実感できるからだ。

つまり今回われわれの体を動かしているものが何か？ それが「煙」「誰か」「私」になる。

その他者がどんな動きをし、どんなエネルギーを持っているのか？ それがまだ理解されずに自分で動いてしまっているところがある。

そして、遠めにみれば、何も起きない、だが近くに行けば、一度も同じ動きがない、が時に波は大波になって海岸を襲い、跳ねて肌を濡らす。冷たい。あるいはにわかに夕立となつてずぶぬれになる。が次の瞬間にはまた晴れ間がのぞく。

風景は時に、物質となって私に触れ、また風景となって遠のく。

「煙」の舞台が、この波や雲のように、動いていく。時に、舞台全体が煙でみたまされ覆われ、時に、「私=個人」となって観客に触れ、また遠のいて誰かの風景になっていく。煙のなかに、形なき形、声なき声が、見え聞こえてくる。永遠に続く「煙」の風景と議論。そのための作業が、また続く・・・

4. 行為に際しての意識

Space Consciousness

1) 空間の使い方

How to use space.

a. 方向

縦に使う、向ける
横に使う、向ける

Direction

Using space vertically--Acting to the front
Using space alongside the audience
-- Acting along audience
Using space nondirectionally
--Acting nondirectionally

無方向に使う、向ける

b. 範囲

小さい範囲
大きい範囲（全体）

Range

Using small space
Using all space

c. 位置

どここの位置を使うか

Position

Position in space to use

d. 長さ

移動時の長さ

Length

Length from here to there

2) 空間の計測

Measuring space

距離の捉え方

How to take distance

3) 空間の空気感

A feeling of Air of Space

今、身体から出している空気感
〜強い、ルーズ、ラフ、明るい、暗い

A feeling produced from my body now.
〜Tension, loose, rough, bright, dark, ...

4) エネルギーの方向

Direction of Energy

内側へ、外側へ、観客へ

〜To inside, outside, audience.

5) 観客からの景色

Landscape from the audience

正面近くの観客から
遠くからの観客から

From the front audience.
From the far audience.

6) 時間の前進感覚

Progress sense of time

時間を停滞させず、流れに乗っている

Don't stagnate time, always on flow of time.

7) 構成意識

Composition Consciousness

持続と、中断と再開
イメージの反復的現れ
空間（混沌）と場（共有）
シフトや行為の緩急

Continuation, interruption and re-start.
Repetitive appearance of image.
Space (chaos) and place (shared)
Fast and Slow of shifting and movements